千葉歴史の散歩道



海を望む古墳人と大寺山洞穴（おおでらやまどうけつ）
－古墳を築かなかった人々－

県教育庁教育振興部文化財課発掘調査班文化財主事　小此木（おこのぎ）　遼（りょう）

古墳時代の墓と言えば、円形や方形、鍵穴形の大きな「古墳」を思い浮かべる人が多いだろう。しかし、古墳時代に「古墳」を造らず、「ほらあな」を墓として利用した例を県内で見ることができる。

館山市の大寺山洞穴（おおでらやまどうけつ）は館山湾の近くにあり、波によって削られ形成された海食洞穴（かいしょくどうけつ）であり、三つの洞穴が南側から第１～３の順で横並びに開口している。

第１洞からは、発掘調査によって、舳先（へさき）を洞穴入口方向に向けた状態で、12基を超える古墳時代の丸木舟（まるきぶね）（全長３ｍ）が発見された。丸木舟には、仕切り板等に摩耗した箇所があり、実際に使用されたものと思われる。

丸木舟とともに、人骨と副葬品（ふくそうひん）が出土し、一部の丸木舟内からは、複数人の人骨が発見された。このことから丸木舟を棺として使い、洞穴を墓として利用していたことが分かった。

副葬品としては、金属製の甲冑（かっちゅう）・刀剣・鏃（やじり）・耳飾（みみかざ）り、銅製の鈴、木製漆塗（うるし）りの弓・盾（たて）、勾玉（まがたま）・ガラス玉等の玉類、須恵器（すえき）の壺（つぼ）、土師器（はじき）の高坏（たかつき）等が出土した。これらは同時代の有力者が埋葬された古墳と同等の副葬品である。

古墳時代の洞穴で、実際の丸木舟を棺として利用・埋葬したことが確認された事例は、日本列島でもこの大寺山洞穴だけである。

なお、第２・３洞からは縄文土器等が出土しており、このうち第３洞からは、縄文土器のほか、漁撈具（ぎょろうぐ）や魚の骨、埋葬された人骨等が出土し、縄文時代から海を生活基盤とした人々が利用していたことが推測できる。

この大寺山洞穴の事例からは、古墳時代の有力者は、必ずしも立派な古墳に埋葬されたわけではないということが確認できる。

そして、海食洞穴を利用した丸木舟の棺と豪華な副葬品によって、大寺山洞穴の周辺に、海との関係の深い有力な海洋民が存在したことを教えてくれるのである。

※大寺山洞穴の関係資料については、現在、館山市立博物館等に保管されています。

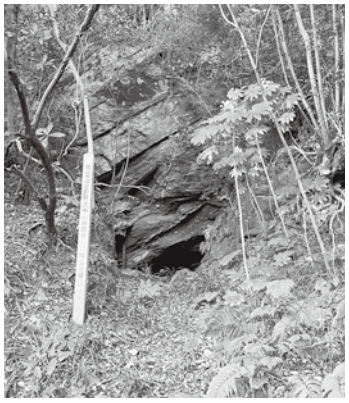


写真１　第１洞入口（筆者撮影）

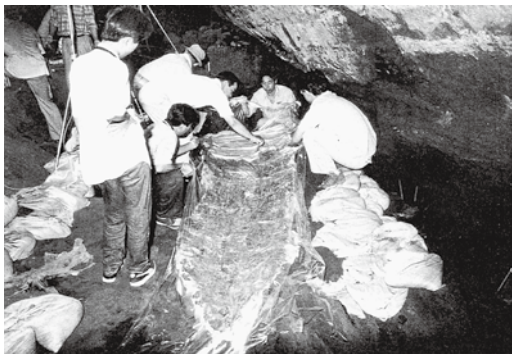


写真２　舟棺調査状況
千葉大学文学部考古学研究室1996『大寺山洞穴第３・４次発掘調査概報』より引用

千葉教育　桜（No. 691）　令和７年３月13日発行

編集・発行　千葉県総合教育センター　（代表）酒井　誠一
〒261－0014　千葉市美浜区若葉２－13　　TEL　043－276－1204
URL　https://www.ice.or.jp/nc/
印　刷　所　千葉市療育センター　いずみの家
〒261－0003　千葉市美浜区高浜３－３－１　　TEL　043－216－2465